

内閣総理大臣御発言

平成十三年四月十九日（木）
第五回総合科学技術会議

本日は熱心なご議論を頂きありがとうございました。

先月三十日には、総合科学技術会議から答申された総合戦略を受けて、「科学技術基本計画」を閣議決定いたしました。本基本計画の策定は、総合的かつ戦略的な科学技術政策推進に向けた第一歩であり、今後、本基本計画に示された重要政策について、省庁間の縦割りを排し、総合科学技術会議が司令塔となって、実現していかなければなりません。

中でも、本日もご議論いただきました、平成十四年度の科学技術に関する予算、人材等の資源配分の方針の作成は、最重要課題の一つであります。このため、まず、六月を目途に、専門調査会を活用しつつ、分野別推進戦略を作成することといたします。効果的・効率的な資源配分を図るための研究システム等の改革についても、あわせて検討することが重要であります。

また、本日は、文部科学大臣から、「ヒトES細胞の樹立及び使用に関する指針について」の諮問がありました。ヒトES細胞の研究は、世界的にも移植医療への応用が期待されているものであり、これまでの議論も踏まえ、生命倫理専門調査会を活用しつつ、生命倫理の観点から、真摯な御議論をお願い致します。

主要国の科学技術に関する重点課題についても、米国ブッシュ政権の新たな動きも含めて、井村議員からご報告いただきました。各国とも、優れた研究成果を生み出すための研究システム改革を行い、知の源泉たる基礎研究に力を入れるとともに、研究成果の活用による産業競争力の強化に向けたイノベーションを推進しております。我が国としても、このような世界の動向に的確に対応し、科学技術政策の戦略的な推進を図っていくことが必要であります。

最後に、科学技術の振興は、未来への先行投資とも言えるものです。総合科学技術会議は、内閣総理大臣のリーダーシップの下、総合的かつ戦略的に科学技術の振興を図っていくための「知恵の場」として、極めて重要な役割を担っております。創設以来、はや五回を重ね、特に有識者議員の皆様からは、多くの貴重な御意見を頂戴いたしました。今後も、「希望の世紀」の実現に向け、議員の皆様のご尽力をお願いし、ご挨拶といたします。